

卸売市場におけるブドウ‘シャインマスカット’の産地間価格差と品質要因

島根県農業技術センター 山本 善久

1. 課題の背景

ブドウ新品種‘シャインマスカット’は、果肉特性が崩壊性で噛み切れやすく硬く、尚且つ、マスカット香を持ち食味が優れ[1]、皮ごと食べることのできる有望品種である。

また、裂果性が非常に低い上に、脱粒しにくく日持ち性にも優れるため[1]、栽培・流通面からの期待も大きい。

このように、優れた品種特性を背景として、近年、全国規模でシャインマスカットの植栽が進むとともに、生産量の著しい増加がみられるようになってきた。しかしながら、それに伴い、産地間競争は激化する傾向にあり、価格競争で優位に立つ産地が出現する一方で、価格の低迷が顕著な産地とに2分される傾向にある。

したがって、これまで希少的価値により高値が維持されてきたシャインマスカットも、今後は品質差がより価格に反映されることが予想されることから、産地競争に打ち勝つための戦略、すなわち、高価格を獲得できる品質基準の解明が求められる。

既存研究では、花きやイチゴを対象に、卸売業者のニーズや価格差が発現する要因を品質評価基準の視点から解明したもの[2][3]、または、きゅうりやメロンを対象に価格形成要因を解明したもの[4]があるものの、ブドウを対象に価格形成に与える品質基準を明らかにしたものは見当たらない。

そこで、本稿では、大阪市中心卸売市場本場におけるO青果の取引実態をもとに、第1に、価格面から産地間格差の状況を整理し、第2に、価格差が発現する要因を卸売業者の品質評価を基準に明らかにする。

なお、卸売市場及び卸売業者を分析対象に据え

たのは、消費者ニーズに比べより具体的な品質属性を明らかにできること[2]、さらに、現時点では、シャインマスカットの流通量が限られていることから、消費者が品質評価をおこなうのに十分な情報量を有していないと判断したためである。

2. 調査・分析方法

1) 価格差からみた産地間格差の現状

O青果における2009年から2012年のシャインマスカット価格データをもとに、年次平均増加率を算出し、産地間格差の現状を整理した。

なお、年次平均増加率の推計方法は最小二乗法を用い、産地間の比較は、O青果と取引のあるY、O、S、Kの主要4産地データを用いている。

また、施設、露地栽培の違いによる価格差を排除するため、7月上旬から8月中旬までの施設栽培ものが入荷される時期に限定した。

2) 求められる品質基準と産地間格差の要因

O青果におけるバイヤーの評価をもとに、求められる品質基準と産地間の格差を明らかにした。

具体的な品質評価基準は、食味、果皮、果粒、房、荷姿・流通、総合評価の21項目であり、品質評価における重視度と満足度について5段階評価を得た。なお、満足度は、産地ごとに評価を得ている。

3. 分析結果

1) 価格差からみた産地間格差の現状

取り扱い全量の年次平均増加率が-10%の減少傾向を示すなかで、いずれの産地も価格下落傾向にはあるものの、Y産地、O産地、K産地の下落率は、相対的に小さい傾向にある(表1)。また、

表1 シャインマスカット価格の年次平均増加率

	価格			入荷量	
	年次平均増加率(β)	決定係数(自由度修正済) R2	2012年実績(円/kg)	2012年実績(kg)	比率
取り扱い全量	-0.100 (-11.38) ***	0.977	1,976	22,627	100%
Y産地	-0.092 (-3.50) *	0.790	1,927	11,151	49%
S産地	-0.176 (-1.87)	0.456	1,498	1,510	7%
O産地	-0.096 (-3.90) *	0.825	2,328	2,510	11%
K産地	-0.065 (-5.77) **	0.915	2,016	5,610	25%

註1) O青果資料を基に作成した。

註2) $\ln Y = \alpha + \beta \times T$

$$\left[\begin{array}{l} Y: \text{価格} \\ T: \text{年次 (2009年=1, 2010年=2...)} \end{array} \right]$$

註3) ***1%有意、**5%有意、*10%有意であることを示す。

註4) 計測期間は、2009年～2012年の7月上～8月中旬である。

註5) 価格は、2010年を100としてデフレートしている。

註6) () 内の数値は t 値を示す。

2012年実績価格からは、O産地及びK産地がY産地及びS産地の価格を上回っており、価格面で比較優位にあるといえる。なお、入荷量の最も多いY産地の価格が、取り扱い全量の実績価格を下回っていることから、必ずしも入荷量の多少が価格の高低に影響しておらず、実際の価格差は品質的要因によるところが大きいことが示唆される。

2) 求められる品質基準と産地間格差の要因

求められる品質基準は、「果皮の汚れがないこと」「粒が大きいこと」「粒の張りがあること」「房に隙間・開きがないこと」「房の形が整っていること」「出荷個包装の荷姿がきれいなこと」「同一規格内のバラツキが小さいこと」「脱粒がないこと」「軸が緑色であること」の9項目で重視度が高い傾向がみられた(表2)。

それに対して、評価項目の満足度は(個人的バラツキが大きく、評価産地が困難な項目は除く)、「脱粒がないこと」「房の形が整っていること」「粒の形が揃っていること」の3項目について、品質評価の高い産地と低い産地で評価差が大きい傾向がみられた。

したがって、産地間比較が可能な評価項目で差が

表2 シャインマスカットの品質基準と産地間格差の品質的要因

評価項目	評価の分類	品質重視度	品質満足度				品質満足度の評価差(B)-(A)	
			品質評価の低い産地(A)		品質評価の高い地域(B)			
			Y産地	S産地	O産地	K産地		
食味	糖度(甘み)が高いこと	3	-	-	-	-	-	
	香りがよいこと	3	-	-	-	-	-	
	果肉の食感がよいこと	3	-	-	-	-	-	
	皮が残らないこと	4	-	-	-	-	-	
果皮	果皮の色がよいこと	4	-	-	-	-	-	
	果皮の汚れがないこと	5	-	-	-	-	-	
果粒	粒の形が揃っていること	4	4	2	4	5	1.5	
	粒が大きいこと	5	-	-	-	5	-	
	粒の張りがあること	5	-	-	-	-	-	
房	房に隙間・開きがないこと	5	4	4	4	4	0	
	房の形が整っていること	5	2	2	3	4	1.5	
	房にボリューム感があること	3	-	-	-	-	-	
荷姿・流通	出荷箱(DB)の荷姿がきれいなこと	4	3	3	4	4	1	
	出荷個包装の荷姿がきれいなこと	5	-	4	3	4	-	
	出荷箱(DB)資材の見栄えがよいこと	2	3	3	2	3	-0.5	
	出荷個包装資材の見栄えがよいこと	4	3	3	5	-	-	
	同一規格内のバラツキが小さいこと	5	3	2	3	4	1	
	出荷規格の基準が分かりやすいこと	3	-	-	-	-	-	
	脱粒がないこと	5	3	1	4	5	2.5	
軸が緑色であること	5	3	2	3	4	1		
総合評価(満足度のみ)				2	2	3	5	2

註1) 聞き取り調査より作成した。

註2) 品質満足度の評価差は(A)及び(B)産地の平均値の差を示している。

註3) 品質重視度は、5:絶対に重視、4:かなり重視、3:重視、2:やや重視、1:重視しないで回答を得た。また、満足度についても同様の項目について5:非常に満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:やや不満、1:非常に不満で回答を得た。

みられた「脱粒がないこと」「房の形が整っていること」「粒の形が揃っていること」の3項目は、産地間価格差が発現する一要因である可能性が示唆される。

参考文献

[1] 山田昌彦・山根弘康・佐藤明彦・平川信之・岩波宏・吉永勝一・小澤俊治・三谷宣仁・白石美樹夫・吉岡美加乃・中島育子・中野正明・中畝良二「ブドウ新品種「シャインマスカット」」『果樹研究所研究報告』第7号、2008、pp21-38。
 [2] 山本和博「切り花の品質評価と生産者の対応」『農業経営研究』32(4)、1995、pp1-11。
 [3] 山本和博「卸売市場におけるイチゴの高品質基準と産地対応」『農業経営研究』49(2)、pp41-44。
 [4] 小島豪「青果物卸売市場における品質評価の計量分析」『農業経済研究』69(4)、1998、pp213-221。